

経営比較分析表（令和5年度決算）

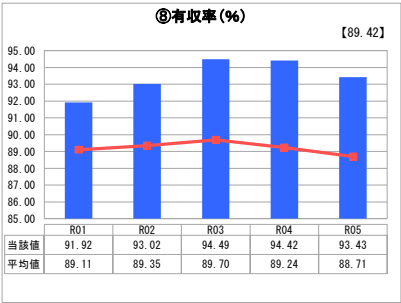
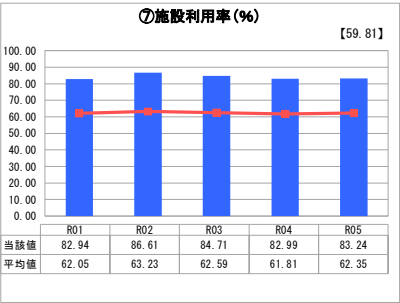
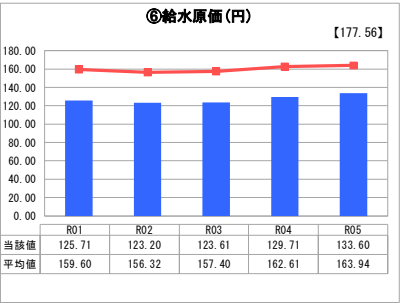
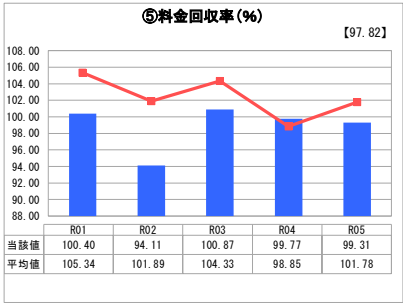
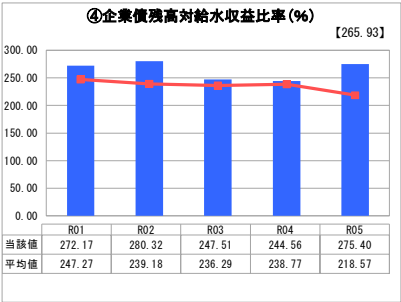
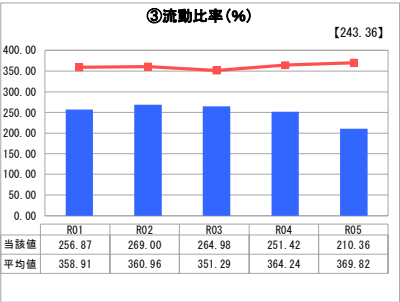
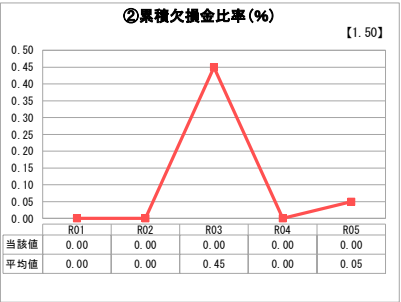
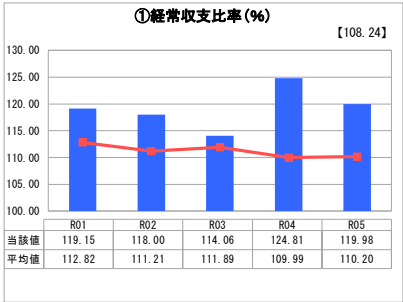
埼玉県 朝霞市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	68.63	100.00	2,255	

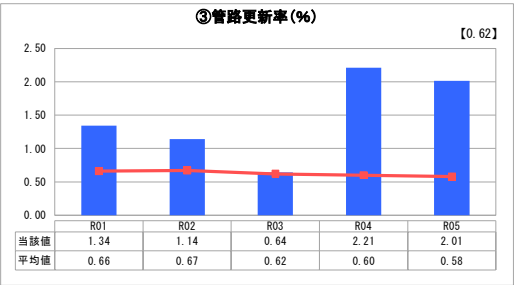
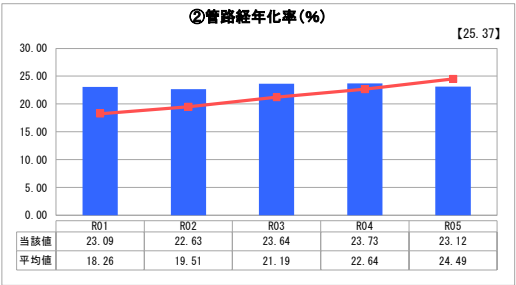
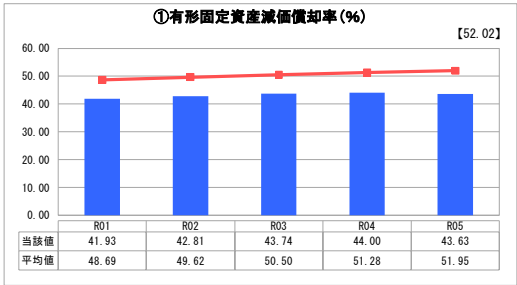
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
144,964	18.34	7,904.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
145,531	18.34	7,935.17

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は水道利用加入の減少等により前年度より4.83%減少し119.98%となっているが、100%を上回り健全な経営状況と言える。
③流動比率は類似団体平均を下回っているものの200%を超える水準を維持しており、短期債務に対して十分な支払い能力を有している。
④企業債残高対給水収益比率は企業債による借入が増加したことにより前年度より30.84%増加の275.40%となった。長期的な経営への影響も考慮しながら企業債の活用を検討していく必要がある。
⑤料金回収率は水道料金の減免をおこなったこと等により、100%を下回った。
⑥給水原価は類似団体平均を下回る水準を維持しているが、減価償却費や委託料が増加したこと等により前年度に比べ3.89円増加している。
⑦施設利用率は80%を超える水準で推移しており、効率的に施設を利用できている。
⑧有収率は前年度から低下したものの、類似団体平均を上回る水準を維持している。引き続き漏水調査など有収率の改善に努めていく。

2. 老朽化の状況について

老朽管の更新を進めており、③管路更新率が2%を上回る水準となっている。その結果、①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回る状態を維持しており、また、②管路経年化率についても類似団体平均を下回る水準に改善している。

全体総括

全体の指標としては健全な経営状況と言えるものの、老朽管更新工事等の建設改良工事を多く行っていることから、企業債や減価償却費が増加しており企業の利益を圧迫することが懸念される。また、令和4年10月に水道料金の改定を行ったものの、エネルギー価格や人件費の高騰により工事費等が上昇していることや、令和8年度から県営水道の料金改定が予定されていることから更なる経費の削減や適正な料金水準について検討をしていく必要がある。

経営比較分析表（令和5年度決算）

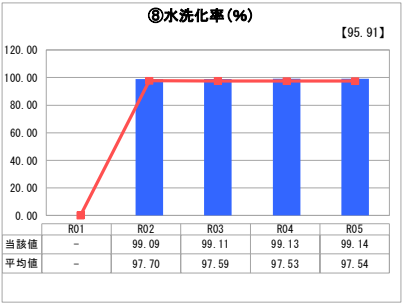
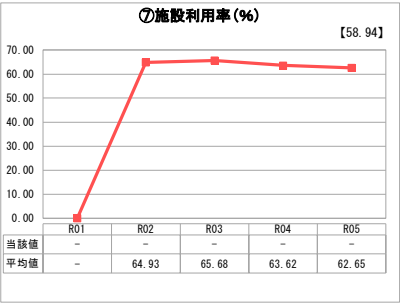
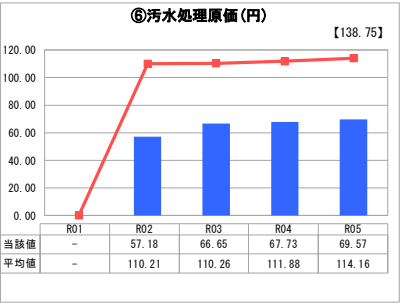
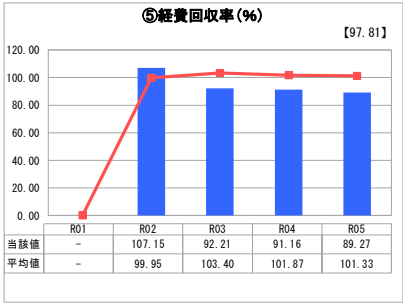
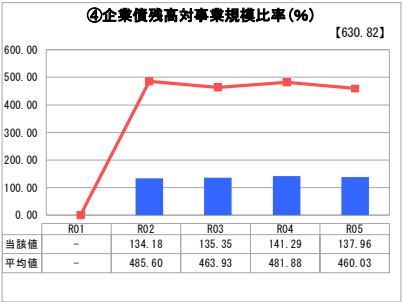
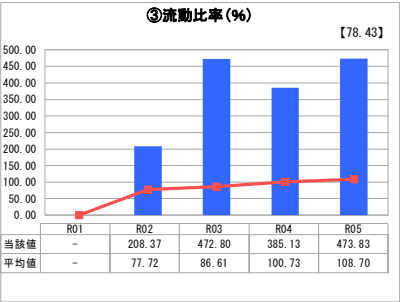
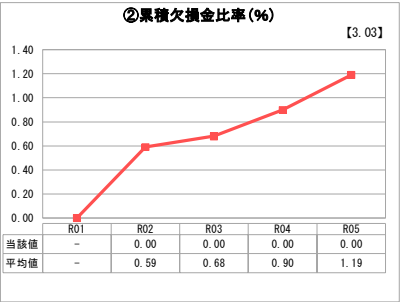
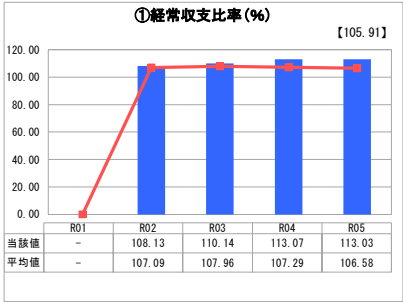
埼玉県 朝霞市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	81.58	97.89	85.54	1,155

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
144,964	18.34	7,904.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
142,461	11.02	12,927.50

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値） — 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

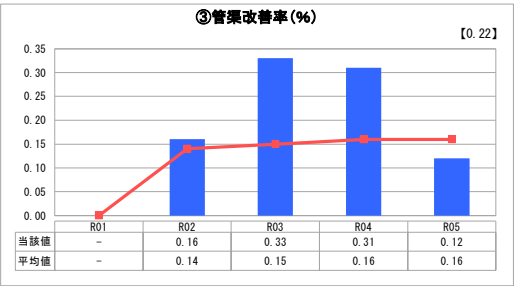
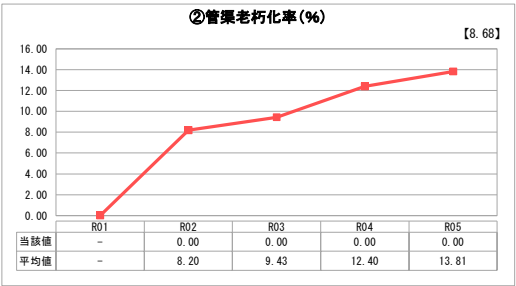
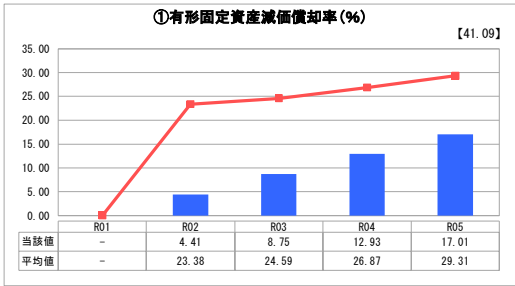
1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超えているが、財源の一部は一般会計からの繰入金で補っている状況である。
②流動比率は200%を上回っており、一年以内に支払うべき債務に対する十分な支払い能力があることを示している。
③企業債残高対事業規模比率は、企業債の発行額が増加傾向であるものの、その多くが雨水対策関連（一般会計負担分）であることから、横ばいで推移している。
④経費回収率は89.27%と100%を下回っており、汚水処理費を使用料で賄うことができていないことから、適切な使用料の水準等について検討する必要がある。
⑤汚水処理原価は委託料や修繕費の増加により1.84円増加したものの、類似団体平均、全国平均と比較し、低い状態を維持しており、効率的な経営ができています。
⑥水洗化率
類似団体平均、全国平均を上回る水準にあるが、未接続世帯の減少を図るため、今後も継続的に啓発活動を行っていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均や全国平均より低い値で推移しているが、これは、法適用前に減価償却された資産が累計額として計上されていないことによるもので、供用開始から40年以上が経過し老朽化は進んでいる。
②管渠改善率は平均値を下回っているが、本市では、下水道施設の計画的な改修・更新のため、平成29年度からストックマネジメント事業に取り組み、今後も計画に基づき、施設の適切な維持管理を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

全体の指標としては健全な経営状況と言えるものの、経費回収率が100%を下回り、一般会計からの繰入金などで財源を賄っている状況である。また、令和7年度から荒川右岸流域下水道維持管理負担金が改定されることとなっており、経営への影響が懸念されることから、更なる経費の削減や適切な使用料水準を検討していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。